

校長通信

Morifun

<共感すること…empathy>

5月7日(火)に今年度初めての全校礼拝が行われ、土沢教会牧師の上野玲奈先生から今年度我々が目標とすべき言葉をいただきました。

ローマの信徒への手紙「キリスト教的生活の規範」

15 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

この言葉を今年度の私たちの目標としたい。自分の隣にいる友人が悲しそうにしていたり、辛そうにしていたりすれば心配し、共感できるが、実際この人と一緒に泣ける、この人と一緒に笑えるという人は、例えば恋人や友人、親や兄弟姉妹なのだろう。しかし現実を見れば、シリアでは非戦闘地域で爆撃が起り、多くの女性や子供たちが傷ついている。スーダンやベネズエラでも国が混乱している。それを安全な日本にいる我々が共感したり、可愛そうだと泣いたりするのは難しい。近くの人には共感できても遠くの人にはなかなか共感できない。

この聖書の言葉はパウロの言葉だが、元々徳を積んだ人間ではなかった彼がどうしてこの言葉を書いたのか。それは自分で意識して、旅をしている人々と出会い、悩んで自分を見つめ直したから。人は自分にはできないことだと理解して、変わろうとしなければ変わらない。

「共感」、「思いやり」という言葉には二つの英語があ

る。sympathyとempathyである。sympathyには「感情と一緒にいる」という意味があり、empathyには「感情の中に入って行く」という意味があり、ここで言う「共感」は後者の意味と捉えている。

日本の社会では、いじめの問題は、年齢が上がれば上がるほど傍観者が増えると言われていた。関わりを持ちたくないという気持ちがそうさせるのかもしれない。小学生よりも中学生、中学生よりも高校生、そして大人が一番傍観者になるのだという。empathyの力をつけていけば、日本ではいじめも減り、泣く人も減っていくのではないだろうか。そうなると信じながら、今出来ていないと認めるところから始めよう。大人としての成熟度をぜひ身に付けよう。

とても素晴らしいお話でした。「共感力」を身につけること、簡単なようだけど、やはり難しいことのように思えます。この力をつけていくためには、想像力を磨くことが大事であると考えます。そのためにも皆さんにはぜひ本を読んで欲しい。読書とはさまざまな「相手の立場」について思いを馳せる営みでもあるのだから。

<平成から令和へ>

「令和」の時代を迎えました。令には、良い、美しい、秩序という意味があり、和には調和、平和という意味があるということです。良さや美しさは人によって求めるものが異なります。上皇(平成時代の天皇のこと)は昨年12月の誕生日の記者会見で「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵します」と述べられましたが、実際に平和を実現する道は多様で果てしない道です。皆さんは令和にどんな願いを込め、どのように生きていくのでしょうか。ぜひ平和な世の中が続くように、お互いを認め合い、協力し合って素晴らしい時代を築き上げてほしいと願います。

時代の「節目」ということについても考えてみましょう。日本は改元に限らず、節分、節句、彼岸などの節目

を大切にしてきました。竹という植物は節目があるからしなやかで強い。日本人は節目で切り替え、しなやかに生きてきました。起立・礼・着席の礼も切り替えです。一礼することにより気持ちを切り替え、集中して授業に臨むことができます。気持ちを切り替え、集中する習慣を身に付ければ、大抵の難題は乗り越えることができるはずです。ぜひ日常の節目を大切にしましょう。

<第71回県高校総体>

5月23日(木)からの陸上・ラグビー競技を皮切りに今年度の県高校総体が始まりました。すでに硬式野球は春季大会として始まっており、本校野球部は順調に準決勝に駒を進めています。野球部の活躍を始め、高校総体での本校の活躍の様子は次回の通信で詳しく紹介したいと思います。

さて、5月21日(火)には総合開会式が予定されていましたが、荒天のため残念ながら中止となりました。開会式の中止は初めてのことのようです。長い歴史の中、確かに雨のため室内で縮小した形で開会式が行われた記憶はありますが、特にもここ十年ほどはほぼ予定通り行われてきており、今回の天気は恨めしいほかありません。本校でも開会式に向けて応援歌練習を行っていたので、1年生や応援委員の皆さんのがっかりした様子が目に映るようです。当日は1964年東京五輪聖火台の除幕式も予定されており、点火式ランナーをバレーボール女子元日本代表の木村沙織さんが務めることになっていたということをニュースで知り、さらに恨めしく思いました。

とにかく本校選手団の健闘を祈っています!

今月の言葉「授業に集中できない者が試合の大事な場面で集中できるだろうか。ふだん挨拶のできない者が試合中に声を出せるだろうか。感謝の気持ちを持ってない者が、協力し合ってチームプレイができるだろうか。」

(佐藤久夫 明成高校バスケットボールヘッドコーチ)